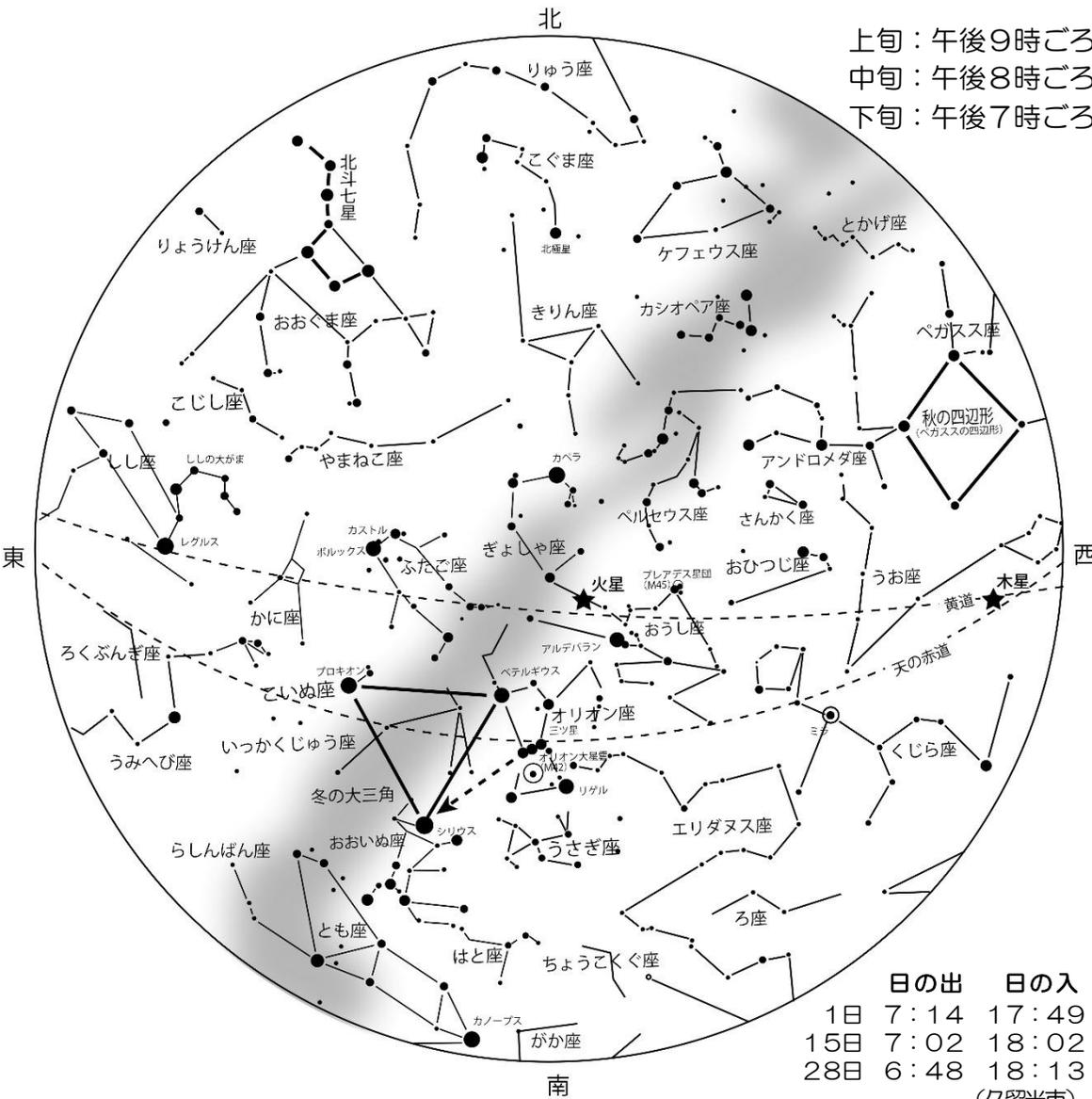


令和5年 2月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



上旬：午後9時ごろ
中旬：午後8時ごろ
下旬：午後7時ごろ

★2月の星空案内

2月4日は「立春」です。この日は二十四節気において春のはじまりとされていますが、まだまだ夜空では冬の星や星座を楽しむことができます。冬の星や星座探しは、南の空で見つけることができる等間隔に並んだ3つの星“三つ星”と、それを取り囲む明るい4つの星がつくる砂時計のような星の並びからスタートです。この砂時計のような星の並びを目印に見つけることができる星座がオリオン座です。“三つ星”の北東（左上）で輝く星は1等星のベテルギウス、南西（右下）で輝く星は1等星のリゲルです。オリオン座の星の並びについては様々な呼び方があり、三つ星と結んでできる中央のくびれた形から“鼓星（つづみぼし）”や“蝶星（ちょうぼし）”と呼ばれることがあります。また、三つ星を取り囲む4つの星を結んでできる四角形から“凧星（たこぼし）”と呼ばれることもあります。オリオン座は特徴的な星の並びをしていますので、実際に夜空で探して自分なりの呼び方を考えてみるのも面白いかもしれません。そして、“三つ星”を南東（左下）にのぼしていくと見つかる星が、おおいぬ座の1等星のシリウス。シリウスは全天で最も明るい恒星です。次に、シリウスから北東（左上）に目線移すとこいぬ座の1等星プロキオンを見つけることができます。オリオン座のベテルギウス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンを結んでできる三角形は『冬の大三角』と呼ばれ、実際の夜空で目を引きます。

2月の夜空では他にも多くの1等星が輝いており、星や星座を探しやすい時期です。ぜひ、寒さ対策をしっかりとして夜空を見上げてみてください。

【見ごろの惑星】（☆マークは、今月のおすすめです。）

- ☆水星(-0.3等前後):いて座→やぎ座付近 観測に適さない。
- ☆金星(-3.9等前後):みずがめ座→うお座付近 日の入り後、西の低空でひときわ明るく輝く。
- ☆火星(0.1等前後):おうし座付近 20時頃、南の空で赤っぽく輝く。
- ☆木星(-2.1等前後):うお座付近 20時頃、西の空で明るく輝く。
- ☆土星(0.8等前後):やぎ座→みずがめ座付近 観測に適さない。

日の出	日の入
1日 7:14	17:49
15日 7:02	18:02
28日 6:48	18:13

(久留米市)

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
4	土	立春 (11:43)	20	月	● 新月 (16:06)
6	月	○ 満月 (03:29)	27	月	◐ 上弦 (17:06)
14	火	◑ 下弦 (01:01)			

注目の天文現象(2月) プレアデス星団(M45)を見てみよう

冬は多くの1等星が見えますが、宝石のようにきらめく星の集団も見ることができます。おうし座のプレアデス星団(M45)は、日本では「すばる」と呼ばれてきました。清少納言が「枕草子」の中で「すばる」を取り上げており、古くから日本で親しまれてきたことが分かります。また、その美しさから「星の宝石箱」と呼ばれることもあります。肉眼で見ると5~7個ほどの星が集まって見えています。

このようなプレアデス星団を見つけるには、オリオン座の「三つ星」を結んだ線を北西(右上)にのぼして下さい。するとオレンジ色に輝く1等星アルデバランを見つけることができます。さらにのぼしていくとプレアデス星団を見つけることができます。2月は、日の入り後1時間ほどが過ぎ、空が暗くなってきた頃におうし座が南の空の高い位置に見えるため、プレアデス星団を観察しやすい時期となります。観察に挑戦してみたい方はぜひ。